Cover History

－表紙写真由来－

桜と農業用水が織りなすハーモニー
常西合口用水プロムナード

―富山県中新川郡大山町―

I.　地域の概要

富山県を流れる多くの河川の下流には，扇状地で形成された平野部が広がっています。立山連峰などの山々は，冬に降った雪により天然の恵みのダムとなり，春の訪れとともにゆっくりと雪は溶け，川を流れ下り，これらの豊かできれいな水によって，日本でも有数の穀倉地帯となっています。

おいしいコメを作る上で農業用水が果たす役割は大きいものがありますが，富山県は昔「越の国は川の道」とよばれたように，毎年，これらの河川は豪雨のだびに氾濫し，堰や農地は流され，取水口や水路は土砂で埋まり，その度に地域住民は総出で堰などを造り直してきました。

このように，豊富できれいな水を上手に隅々の農地まで行き渡らせるため，富山県民は古くから努力を重ね，富山県にはこうして建設されたダム，堰，農業用水路などの農業用の水利資産が8,500億円に及ぶといわれます。

富山県のほぼ中央を流れている常願寺川は，明治時代，「日本一の暴れ川」と呼ばれ，大雨のたび水害を引起こしました。その名の由来は「川の氾濫がないことを常に願う」ことから命名されたといわれています。

当時，常願寺川の両岸に展開する扇状地は，富山市，立山町，大山町，舟橋村にまたがる約10,000 haの水田地帯で，常願寺川の水を農業用水として利用した記録は寛政17年(1640年）が初めてといわれています。

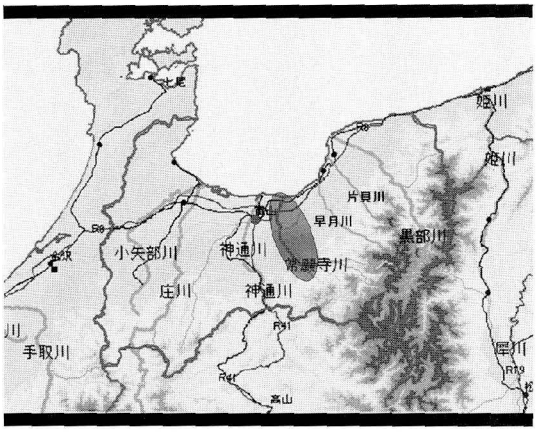

図-1　地域の位置図

II.　治水対策と農業用水の合口化

常願寺川の平均河床勾配は，30分の1と急流で，また，上流部には立山カルデラとよばれる崩壊地が広がっており，江戸時代末期に起こった飛越地震によって，このカルデラにあった鳶山が崩壊し，その後，ほぼ1年に1回以上の割合で洪水が起こるようになりました。

明治24年(1891年）の7月に行った大水害は，富山県全域に及びましたが，当時の第三代富山県知事森山茂はその他の河川は応急対策に止め，常願寺川の抜本的な改修工事の実施を英断しました。これを契機に，常願寺川の大改修事業が行われ，その陣頭に立ったのが木曽三川の改修などを手がけたオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケでした。彼は，堤防の破堤の原因ともなっていた左岸側の取水口12ヵ所を全て廃止し，上流側の安全な場所に取水口を1ヵ所設け，そこから各用水を分水する合口化事業を提案・実施ししました。

明治25年(1892年）2月，ついに工事は着工され，当初，その年の灌漑期までの完成を目標としていたが，土砂による埋没や地質変化を起こした部分があって工事は難航しました。悪戦苦闘を繰返しながらも明治26年(1893年）10月，全長13 kmにもなる大用水常西合口用水（写真-1)は完成しました。

写真-1は，完成当時の常西合口用水ですが，撮影位置の下方をから上流の取水口まで隧道を掘削しています。常願寺川の水は，多くの土砂を含んでいるため，トンネル下流に沈砂池を設けていて，写真のほぼ中央にあるのが排砂水門で，堆積した土砂は右上の常願寺川に排

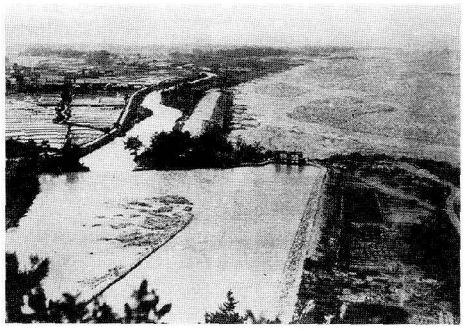

写真-1　当時の常西合口用水路（下流を望む）

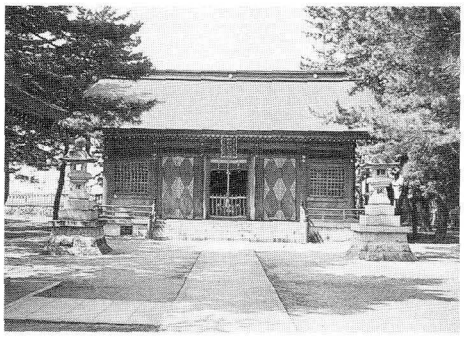

写真-2　常西土地改良区が建設した水神社

砂する仕組みとなっていました。

多くの恩恵をもたらした常西合口用水の開削50年を記念して，昭和16年に当時の常西合口用水普通水利組合（現常西用水土地改良区）が常西合口用水の随道出口にあたる大山町上滝地内に水神社を建設し，毎年，7月に，先人の苦労を称えるとともに，五穀豊穣を願って関係者で奉納を行っています。

III.　多くの役割を担う常西合口用水

常西合口用水路は，農業以外の役割も大きなものがあります。

昭和30年から昭和40年代にかけて富山市では給水人口の飛躍的な増加が見込まれていましたが，地下水からの汲み上げには限界がありました。このため，常西合口用水を利用して富山市の浄水場まで上水，工業用水を導水することとなり，今日に至っています。

この結果，現在では，富山市民30万人の上水のうち95%は常西合口用水から取水されています。

また，地形勾配を生かした水力発電も行われており，北陸電力（株）の発電所が4基建設されています。

IV.　環境整備の取組み

常西用水沿いには桜並木や殿様林など美しい景観に加えて，佐々成政が築いたといわれる佐々堤や昔の農業用水の取り入れ口の太田閘門などが残っています。

昭和30(1955)年ごろには，旧上滝町の「青年同志会」が奉仕活動の一環として用水沿いに約1kmにわたり植樹したソメイヨシノの桜並木があります。

富山県では，昭和58年に，国に先駆けて，環境や景観を保全するための県単独事業「やすらぎある農村施設整備事業」を創設し，用水路沿い延長2,040m，小公園4ヵ所，休憩施設，景観保全施設等の整備が行われ平成3(1991)年度に完成をみました。

このエリアは，「常西合口用水プロムナード」と命名され，多くの人に親しまれています。

写真-3　美しい景観を残す常西プロムナード

写真-4　水土里ウォーク・イン常願寺の様子

平成7年には，農業土木学会は，県の先見性を高く評価し，富山県農林水産部に対して「上野賞」を贈呈しています。

毎年春には，大山町商工会青年部がふるさとへの愛着を持ってもらおうと大山町の4つの小学校を卒業する子供たちの手形の銅板を作成し，常西合口用水プロムナードにあるメモリアルロードに設置されます。

また，春の桜並木は絶景で，満開の桜の下にはきれいで豊かな農業用水が流れ，そのバックには雄大な立山連峰が見え，多くの人たちが花見に訪れるなど富山県有数の景観ポイントとなっています。

常願寺川には延長23kmに渡って桜並木を整備する壮大な構想があり，これらの整備は，平成16年3月から富山県，富山河川国道事務所，常願寺川沿岸農地防災事業所，関係市町村，NPO，地域住民の連携によって実施されています。

V.　先人の叡知と努力を次世代へ

平成15年から，地域の方々に農業用水の役割や歴史を知ってもらおうと富山県，水土里ネットとやま，関係市町村，地元土地改良区などが連携し，「水土里ウォーク・イン常願寺川」を開催しています。

今年は，桜が見頃の4月10日に開催される予定であり，多くの人たちの参加が期待されます。

（文責：常願寺川沿岸農地防災事業所　原田　稔）